



Via Latina 22  
00179 ROMA (IT)

SOCIETE DE MARIE  
SOCIETY OF MARY  
COMPAÑIA DE MARIA  
マリア会

### 第3号の内容：

1/9	Salaverri 師, sm
2/9	ザンビア
4/9	フランス
4/9	ブラジル
5/9	チリ
6/9	ハイチ
7/9	カナダ； アイボリーコースト
8/9	スイス
9/9	短いお知らせ

次回の VOCSM は  
2010年6月の予定です。  
皆さんからのニュース、提  
案、活動の写真などをお  
待ちしています。

### FAUSTINO PÉREZ-MANGLANO と共に



この第3号は全てファウスティーノ・ペレス・マングラノに捧げられています。何故でしょうか？彼がたくさんの若者たちにとって証しとなっていることを思い起こすためです。皆さんがこの第3号で目にすることが出来るように、彼の生涯から靈感を受けるグループが増え続けています。

その上、自分の生涯の選択について考える多くの若者にとって、彼は仲介者、支えとなっており、私たちの召命の司牧活動にとっても彼は仲介者、支えなのです。

この3月3日は彼がこの世を去った記念日にあたります。私たちは教会がファウスティーノを尊者として認める日を待っていますが、その間、若者たちにファウスティーノの影響と助けを証し続けさせましょう！どうか、彼らもまた招きに“はい”と答えることができますように！

André Fétis, sm

### ファウスティーノと召命

José María Salaverri, sm

1963年3月3日、ファウスティーノの病状は非常に悪化していました。午前中に御聖体を授けた私は、“彼に天国でして貰う用事を頼むため”、午後また彼のところへ行きました。「ファウスティーノ、君はもうすぐ天国に行くのだから、君に頼んでおきたいことがあるのです。」「神父様、決して期待を裏切るようなことはありません」。私は彼に四つの依頼をしました。そのうちの一つは次のようなものでした。「ファウスティーノ、君はマリアニストに、また、宣教師になりたかったのでしたね。私の願いは、他の人たちがそれぞれの召命の道へ進むのを天国から助けてあげてほしいということです」。苦しみの中で、手に聖母マリアのメダイをしっかりと握っていたファウスティーノは言いました：「もちろんです。」

そして彼はその通りにしてくれました。ファウスティーノの生涯を読んで芽生えた召命について私に語ってくれる手紙が大きなファイルとなって私の手元にあります。召命に係わるこれら全ての中で、あるものは行きつくべきところに辿りつき、あるものはそうではありませんし、またその大部分がどうなっているのか、私は知らないままです。マリアニストの召命についてはどうだったのでしょうか？幾つかは実現しています。でもそこには全てがあります。少年や少女たち。観想的な生活への召命と活動的召命への召命。色々な国々からの召命です。1999年に私はファウスティーノについて受け取ったとてもたくさんの興味ある手紙をもとに、『ファウスティーノのパンと魚』と題する

本を出版しました（フランス語とポーランド語に翻訳）。その中の二つの章は全て召命について語っています。私の手元には次々と手紙が届いていて、守秘義務の許してくれる範囲内で、私はそれらをホームページで紹介しようと考えています。

これらの手紙は恐らく氷山の一角にすぎないのです。ファウスティーノの生涯を読み、自らの中に召命が生まれ、あるいは堅固になりつつあるのを感じた者がこの本の著者に一筆を認めずにはいられないのは当然です。ファウスティーノは種をまき、助けてくれるのであって、肝心なことはこのことなのです。

「召命について疑いを抱いていた時、彼は私を照らしてくれました」。「ファウスティーノのように奉仕したいという大きな望みを私は感じます。私は自分がきっと良いシスターになれると信じます。」「彼は私の召命に翼を与えてくれました。」「御摂理によって私はファウスティーノに出会いました。私は 27 歳です。御主が私を呼んでおられるのを感じます。」「私の召命にあつて彼の現存はひっそりとはありますが、現実そのものです。」「私は教区司祭に叙階されたところですが、ファウスティーノは私が中学二年生のときから私を魅了してやみませんでした。」「十年前に私は“もしも神さまが私に語りかけているのであれば”という本に出会いました。私は 16 歳でした。ファウスティーノは私の中に生き続け、そして今私はシスターです。」「私の召命の初めから、ファウスティーノの姿は私を導き続けてくれました。」以上はたくさんの手紙の中からほんの一部を紹介したものです。

手紙を書いてくれた者の多くは、未だとても若かったころにファウスティーノと出会っています。現代では、召命は遅くやってくると言われ、私たちには青年期やそれ以前に芽生える召命への希望を疎かにする危険があります。でも私の経験からすれば、多くの者は 10 歳ですでに召命についてのファウスティーノのメッセージを理解できるもので、それはたとえ結果が出るのがずっと後になってからとしても、です。彼の模範は種として残り、それが培養されれば、いつかは花開くことでしょう。

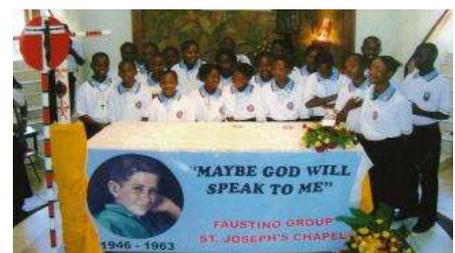
私はしばしば自分に問いかけてみます： 私たちマリア会、マリアニスト家族のメンバーは、聖母マリアがファウスティーノを通して私たちに与えてくださった宝にどれだけ思いをはせていることでしょうか？

+++++

## ザンビア

### Matero Boys - Lusaka

ファウスティーノグループは 2006 年にスタートしました。私たちはマリア会のブラザーと一緒に活動しています。



#### 1. FAUSTINO PÉREZ-MANGLANO MAGRO

彼の日記を通して、御主に完全に捧げられたファウスティーノの魂の中での聖霊の働きを見ることが出来ます。私たちもまた、自分の生活の中で、必要な時に「はい」と言うことを学びたいと思います。ファウスティーノの生涯では四つの「はい」が決定的でした：

- \* ロザリオへの熱意：出来るだけしばしばロザリオの祈りを唱えること
- \* そしてもしも神様がわたしに語りかけておられるのであれば：沈黙の中に、祈りで神と交わること
- \* 苦しみ：苦しいことで落ち込んだままにならず、自分の任務をもっと忠実に果たすこと
- \* 死：神がお望みになる時と場所で死を受け入れ、準備をすること

教会内での召命に関心を抱くためにはもっと年齢が進むまで待つ必要はありません。ファウスティーノは若者でしたし、若くして自分の召命を受け入れたのでした。彼は修道者となる誓願を宣立する直前にこの世を去ったのです。

## 2. 私たちのミッション宣言

キリストのミッションとカトリック教会の社会教義、それにファウスティーノの“はい”によりしっかりと教育された若者のグループを組織すること。またファウスティーノの列福・列聖を促進すること。

## 3. 目標



- 四つの“はい”の核心となるものに従って自分たちの信仰と生活体験を深めること
- 霊的、社会的活動を通じて若い人たちを支えること
- 真実の交わりを育て、あらゆるレベルでの協力とネットワークを推進すること
- 社会の他の若者たちと私たちの間に考えと経験の交換を可能にすること
- ファウスティーノがしたように、神の名と教会の社会についての教えの名で語り、行動する勇気を若者が持てるように、そして私たちの時代のチャレンジに向かい合うことができるよう助けること

- 私たちの周りにいる立場の弱い人々を訪ね、助けること
- ファウスティーノの列福、列聖運動を推進するために ホームページを開設すること

## 4. グループのメンバーシップ

ファウスティーノグループは第五学年以上のカトリックの、初聖体を終了している若者に開かれています。現在のメンバー数は60名を超えています。

## 5. プログラムと活動

私たちのプログラムは、霊的、経済的状況、それに私たちの生きている社会的状況をベースにしています。プログラムは三つに分けられています：

### 5. 1 霊的プログラム

#### 5. 1. 1 入会

年に二度、私たちはこの入会のための感謝のミサを捧げます。すでにメンバーである者にとってはこの奉献を更新し、強固にする機会でもあります。

#### 5. 1. 2 黙想

年に少なくとも二度、黙想会が開かれます。

#### 5. 1. 3 教会訪問

ファウスティーノグループはザンビアで唯一のファウスティーノグループです。私たちはファウスティーノの“はい”を若者に発見させるとともに、他の教区、カトリック学校にグループを紹介したいと考えています。そして、その手段としてマスメディア(ラジオ、テレビなど)を活用する計画です。

#### 5. 1. 4 年度ごとの巡礼

#### 5. 1. 5 教理教室

私たちの殆ど全員が堅信の秘跡を受けていません。この秘跡について学ばねばなりません。



### 5. 1. 6 実習・研究集会

これは特に行動や作法にかかわるものです。このプログラムには：人間性の発育、霊性、創造性、道徳、社会・文化的養成、仲間、学校での暴力、紛争とは何か、職業の選択、HIV/AIDS などが含まれています。

### 5. 2 愛徳の実践：ホスピスや孤児院の訪問

たとえ僅かなものでも、何も持たない人たちと分かち合うことが重要なだとグループは強調します。本当に必要なものや、教材などを分かち合うようにしています。

### 5. 3 全体活動

メンバーの間で、または信者の人たちに限らず、ほかの若者たちとサッカー、バスケット、バレーボール、チェス、討論会、クイズ、など

Group Coordinator Linda Mukutu & Bro. Daniel Odero

+++++

## フランス AMIS DE FAUSTINO & JEUNES DE LA FAMILLE MARIANISTE

“ファウスティーノの友”運動は、若者たちをキリスト教生活の中でサポートするために、1990年代にコルマルで生まれ、次いでアントニー、ボルドー、サンディエに広がりました。私たちの教育方針は共同での活動をベースにしていますが、更には個人的、キリスト教的生活の中で与えられた指導に従って生き抜いたファウスティーノの模範に習い、定期的な個人的会話を持つためにマリアニスト家族のメンバー（修道者など）との会合も欠かせません。活動は決まりきったものではなく、回数もそんなに多くはありませんが、若者たちが現在所属するキリスト教的グループ（聖歌隊、スカウト、チャリティー団体、など）に留まり、その中で彼らがミッシェンの役割を深めることを助けようとするものです。

シャミナード神父が列福された後、このグループはマリアニスト家族の新しく生まれた青年グループ（JFM : Jeunes de la Famille Marianiste）に統合されました。若者たちは上記のそれぞれの場所で共同活動のため集合しますが、また国全体での集会とか夏の集会もあります。彼らは15歳から25歳で、200名ほどになります。希望する者には年度ごとのマリアとの契約がなされます。リーダー役はマリアニスト家族のメンバーが勤めています。

ファウスティーノはこの運動にとって、靈感を与える生きた模範となっています。2003年8月には、JFM 全国集会がファウスティーノの故郷バレンシアで開かれ、ファウスティーノのお母さんとサラベリ神父とも会うことができました。来る夏にはヴォージュとアルプスにあるタミエの修道院で大会が開催される予定です、



+++++

## ブラジル

## GRUPO FAUSTINO

これは教会と若者たちの必要に答えようと努めるグループです。メンバーは、ファウスティーノのようにイエスキリストとマリアの経験をしたいと望む11歳から18歳までの若者たちです。私たちは参加者の年齢に応じて幾つもの小さなグループに分けて、共同生活の中で信仰を生きようとし

ています。

私たちは、チリのマリアニスト学校におけるファウスティーノ運動の司牧計画をもとに、ブラジルの小教区の現状に適合させた上で、スタートしました。活動は養成、霊性、教会、社会の四つの分野にまたがっています。これらは集団力学（グループダイナミクス）と祈りの時間を取り入れながら、四つの段階で進行しています。

グループが始まったのは2009年で、共同体は現在12歳頃の少年2名と少女12名で構成され、土曜日夕方に集会が開かれています。



+++++

チリ

## MOVIMIENTO FAUSTINO

Movimiento Faustino（ファウスティーノ運動）はチリのマリアニスト家族の教育事業における青少年司牧活動の骨組みをなしています。ここには11歳から18歳までの若者がいます。ファウスティーノ運動は彼らが青年期に達した時、Movimiento Marianista（マリアニスト運動）へと繋がって入っていかせようとするものです。

ファウスティーノ運動では、若者たちは自分たちをより良いキリスト教徒とし、兄弟愛と奉仕に生き、自分たちの生活の中でミッションの意味を見出させてくれる信仰の道を辿りつつ、青年キリストの似姿となり、聖母マリアと共に歩もうと努めます。ファウスティーノはこの養成の道のりの中で重要な基準となるのです。

この運動は年齢と学年レベルの心理的、霊的特性に合わせた以下に述べる四つの段階で構成されていて、養成、個人的取り組み、他の人々への奉仕に関する内容の移り変わりが考慮されています：Followers I & II（11歳と12歳）；Friends I & II（13歳と14歳）、Servants I & II（15歳と16歳）、Missionaries（17歳）。この最後の段階が終了した時点で、Movimiento MarianistaのYouth Levelへの加盟を勧められます。



彼らは毎週同じ段階のメンバーで集会を開き、リーダーがサポートします。このリーダーたちは上級部のファウスティーノのグループから自らの取り組みの一部として参加します。それからも彼らは卒業生、元ファウスティーノメンバーとしてこの運動を支え、奉仕を続行します。年配者も協力します。各段階にはモデレーターがいて、集会の準備や調整作業に当たります。

現在、ファウスティーノ運動はシリの四つのマリアニスト学校で活動していて、約750名の若者たちが、85の共同体に分けられ、180名のリーダーがついています。この後者の多くは成人の共同体のメンバーです。

主要な活動としてはリーダーたちの養成のための研修会や黙想、聖霊降臨前夜の聖務、ファウスティーノ関連の業務、サマーキャンプがあります。年長者のメンバーは年間を通じて夏のミッションやボランティア活動で他のグループとの交流を図っています。

若者たちをリードしていく働きは、若者をして若者に福音を告げ知らせる、という司牧の原則で導かれています。この運動の最後の段階でのリーダーたちの人間・キリスト教徒としての成熟、運動への彼らの取り組みの堅固さに向けての養成の底に流れるものは上述の原則です。



### マリアニスト家族の事業

もう 7 年も前からハイチには色々なファウスティーノグループがあります。この運動は 2005 年以來、3 名のマリアニスト家族 Myriam (CLM/MLC), Brother Chevalier (SM), Brother Hervé (SM) からなる全国委員会により共同で推進されています。この国の委員会はこの運動のリーダーたち、大部分は CLM/MLC のメンバーですが、の養成も担当しています。

### 子供たちによって子供たちに福音を告げ知らせること

この運動はハイチの子供たちが抱える必要への答えをもたらすため、特に子供たちのキリスト教的・社会的生活を支えることにより、生まれたものです。この運動はキリスト教的活動を — そのうちのいくつかは典型的にマリアニスト的なものですが — 子供たちの間に連帯的精神を育てるとともに、手先の訓練に役立つその他の教育活動と結び付けたものです。子供たちは自分たちが学んだことを他の子供たちに、そして自分たちの家族に伝えることができます。このようにして彼らは自分なりに福音を述べ伝える役割を演じるのです。ファウスティーノはこのグループの生きた模範です；彼の生涯を描いたポスターが集会の助けとなることもしばしばです。運動の目標の一つは子供たちに如何に自分たちの行動が国の建設に貢献するか、または害するかの見分けを身に着けさせることにあります。



### 福音の道であるファウスティーノ

週末には 6 歳から 9 歳、10 歳から 12 歳、12 歳から 15 歳の年齢別のグループ集会が開かれます。集会にはまず祈り、指導の時間、(ファウスティーノの模範やその週の福音書、最近の出来事などを用いての) 養成の時間、そして終了の祈りが含まれています。サマ

ーキャンプも毎年組織されます。

フランス、なかでもサンディエ (ヴォージュ) とベルフォールのマリアニスト家族の若者たちとの定期的交流もなされてきました。

グループはポルトープランス、アンシュ、ピレット (ここにはマリアニスト家族が開設した学校があります)、カプハイティエン、クロワ・デ・ブーケの少なくとも 5 か所に存在しています。

メンバー数は 300 名、リーダー数は 30 名ほどです。

1 月 12 日に起こった悲劇的な出来事では、ポルトープランスとクロワ・デ・ブーケのグループの子供たちは大なり小なりに被害を受けています。一人は亡くなり、多くの子供たちは家や家族を失いました。今や彼らは色々の救助施設に散らばっています。マリアニスト家族の連帯は被害者の救助に乗り出しています。ファウスティーノがハイチの子供たちとその家族を見守ってくださいますように。

+++++

## カナダ



ケベックでは10年以上も前から、そしてマリアニスト家族がハイチに存在して以来（そしてファウスティーノ運動が広がり始めて以来）、ファウスティーノへの関心が高まっています。CLM/MLCからのリーダーに指導された子供のグループ“ファウスティーノの友”が数年前からサンタンリセンターの周囲に存在していたのですが、今は一時的にストップしています。Jean-Charles Casista 士, SM はファウスティーノの絵を出版し、一緒にモンタージュを作って人々にファウスティーノを繰り返し紹介してきました。彼についての絵本も制作されていて、センターではフランシスコ会の司祭が講話をするとともに、訪問者は色々な出版物を利用することができます。いつの日かの収穫を期待して種がまかれています。

+++++

## アイボリーコースト LE MOUVEMENT DES AMIS DE FAUSTINO

アイボリーコーストでは Le Mouvement des Amis de Faustino (M.A.F.) “ファウスティーノの友運動”が幾つもの小教区、それにアビジャンの聖母巡礼地に存在しています。運動はその目標とする憲章を宣言し、委員会は色々なグループのための活動を提示しています。

### ヨブゴンのサンピエールのファウスティーノ (Faustino de Saint-Pierre de Yopougon)



ヨブゴンのサンピエールの Jeunes Fraternite Marianiste JFM (若いマリアニストのフラテルニテ) は小教区内に募集のためのベースを作ろうとして、2006年、自分たちの運動の児童部を設置することにしました。一年後にはこの児童部は小教区の児童委員会に受け入れられました。私たちがそこで活動するにあたって用いている図書は“An Injection of Energy”とホセ・マリア・サラベリ神父の“Perhaps God is Speaking to Me, The Four Yeses of Faustino”でした。私たちを助けてくれたのは Hervé Dagbo 士, SM です。今や、グループは20名以上のメンバーを抱え、4名のリーダー、それに霊的面で補佐してくれる3人がいます:それは M.A.F.の第一リーダーである Frantzy Perier, それに Claudel Noël 士, SM とノビスの Christophe Mbonde です。私たちがファウスティーノの友運動 (M.A.F.) の名で知られています。

### アビジャンの聖母巡礼地のファウスティーノ

Wolfgang Adela 士, SM により 2009年6月7日に創設された聖母巡礼地のファウスティーノグループは5歳から14歳までの15人の児童と3人のリーダーで構成されています。集会は毎週土曜日に開かれています。目的はたとえ小さくても、ファウスティーノの模範に従って霊的生活に入ることができることを学ぶことにあります。そして自分たちの生活の中にどのように聖母マリアを受け入れ、キリストの光に近づくかを示そうとするのです。



### ヨブゴンのサンローラン小教区のファウスティーノ

ファウスティーノの友運動がここで生まれたのは2007年です。このグループには30名の子供たちと3名のリーダーがいます。彼らは日曜日ごとに、11時の子供のミサの後、年齢別の集まりを開いています。

### ヨブゴンのサンジョゼフ小教区のファウスティーノ

ファウスティーノの友運動は 2006 年以來続いています。リーダーシップをとるのは 2 名の担当者です。グループには 13 名の子供たち、それに 9 名の新しいメンバーが加わっています。全員、日曜日の午後 4 時から 5 時にかけて集会に出席しています。彼らは時には全国カトリックラジオ放送 (RNC) の児童向け番組に出演しています。

### アボボのサンジャンバチスト小教区のファウスティーノ

この児童グループは 2008 年にこの小教区の JFM により創設されました。メンバー数は 35 名です。集会では小さなグループに分けられます。毎週日曜日の午後 3 時から 4 時にかけて 2 名のリーダーとともに集会を開いています。



+++++

## スイス

ファウスティーノに関連した二つのお知らせがあります。1994 年にマルティニーのミサの侍者たちが教会で劇を演じたのです。10 歳から 15 歳の侍者たちの理解力に合わせて私たちはテキストを脚色しました。残念ながらマリアニスト修道者たちがこの土地を離れたため、この活動を周りの他の小教区に展開させることができませんでした。15 年後の今、この経験が彼らに何を残したかを知ろうとして、わたしは彼らとコンタクトを取っています。



ファウスティーノの列福運動の進展状況について何かニュースがある度に、私はスイスのマリアニスト家族のホームページ：[www.marianistes.ch](http://www.marianistes.ch) で報告しています。この若者の生涯を私たちの地域に知らせることは私たちのなすべき第一の努力です。



## 短いお知らせ

“独身、貧しさ、従順、等の生活、それでも安定した生き方であるか？  
マリアニスト修道者としてキリストに従う”  
デイトン大学での召命の催し

11月5日、デイトン大学の召命司牧事務局は「独身、貧しさ、従順、等の生活、それでも安定した生活であるか？マリアニスト修道者としてキリストに従う」というテーマを掲げた一日を組織しました。Sean Downing 士, SM が一同を歓迎する挨拶を行い、ここに居る学生の多くはミサにあずかり、食事をともにするためにすでに私たちの共同体を訪れたことがあり、私たちを良く知っている事実を挙げた上で、次のように述べました：「私たちは私たちの誓願について、また誓願が意味するもの、そして喜びに向かう通り道としてどのように私たちが誓願を生活しているかについて話し合う機会を作りたいと考えたのです。」

Chris Wittmann 師, SM と シスターNicole Trahan, FMI が司会者を務めました。彼ら二人は奉獻生活のなかでの喜びと戦いについて語り、修道者に結婚、富、独立がもたらす喜びを放棄させる誓願が生命の泉であることを強調しました。「そこにあって、祈り、そして他の人々のためのミッションを生きる自由が得られ、心が満ち足りた生き方が送れるのです。」

このイベントには“特別のパスタ”の食事と、小さなグループに分かれての話し合いが続きました。

Sean R. Downing 士, sm (Regional Vocation Office – Dayton, OH)

+++++

## 召命を求める世界祈りの日 (2010年4月25日) を盛り上げるためのマリアニストの材料



マリアニスト家族世界協議会の前回の会議 (2009年11月) において、マリアニスト家族として各枝への召命を増加させようとする私たちの努力につき考察がなされました。私たちの考えは、教会が提案する召命のための世界祈りの日にあたって、毎年、材料を提供することです。こうすることで、このイベントにもっとマリアニスト的な色彩を帯びさせようとするものです。今年はマリア会が四つの枝のためこの準備を担当します。この材料は間もなく渡されます。マリア会では各行政単位のリーダーを通してなされます。

次回の VOCSM は2010年6月の予定です。皆さんからのニュース、提案、活動の写真などをお待ちしています。

[genrelsm@smcuria.it](mailto:genrelsm@smcuria.it)